舌キリ雀?

まあと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
舌キリ雀？

【Ｎコード】
Ｎ２４４５Ｍ

【作者名】
まあと

【あらすじ】
『舌切り雀』のパロ。
擬人化。
昔、書いた物をリメイクしました。

（前書き）

『舌切り雀』のパロ。
雀、擬人化。
直す前は、お婆さんも、お爺さんもメンズでした…。

ポカポカと心地良い、春真っ盛りな、満天の雲一つない空の下。

『うわ～い。美味しい～。やっぱり、「のり」は美味しいね～。』

ぱりぱりぱり。

縁側で日向ぼっこをしつつ、焼き海苔を頬張る、雀のタロ。

『ご飯なんて無くても、俺、全然平気～。』

そんなホクホクな顔で海苔を食べるタロを、障子の隙間から見つけたお婆さん。

タロは、お爺さんが拾ってきた、怪我をした子雀です。

怪我が癒えるまで、優しいお爺さんのお家にご厄介になる気のようです。

因みに、お婆さんはタロが、お爺さんが拾って来た雀だと知っています。

が。

ばたあぁぁん！！

壊れるんぢゃないかと言う、勢いで障子を開ける、お婆さん！

縁側に座る子雀タロを見下ろします。
と、同時に。
ギラリ。
手に持つハサミと眼光が鋭く光ります。
タロは、意地悪するお婆さんの事を何となく避けていたのですが、
今日の勢いには固まってしまって動けません。
黙って海苔を食べていたのを怒られるんだろうか？
どきどきどき。

『お前…。海苔が好きなのか？』
お婆さんの低音ボイスが響きます。
うんうん。
あまりの迫力に、海苔をくわえたまま、ただただ頷く、タロ。

『そっか…。』
にやり。
何かに納得したのか、障子の向こうに帰るお婆さん。
お婆さんの姿が消えても、まだ心臓がドキドキしている子雀タロ。
だって、『舌切り雀』なんて題名なんだもん。

舌、切られるのかと思ったんだよ。
あっ。泣きそう。
なんて、涙をこらえていると、目の前にお婆さん再び。
「ぎゃあっ！！また、出た。許してぇ！」
羽で頭を隠したタロの瞼の裏にはスプラッタな光景が。
『許すって何を？俺、飯、持って来たんだけど。』
ぱちんぱちんと、ハサミでタロが食べやすいように海苔を切ります。
音に反応して、顔を上げるタロ。

「っ！！」
うるるるるっ。
勘違いに気付いたタロの目が安堵の涙で濡れます。
「ごめんね、お婆さん。疑って。俺、切られるって、思って。」
くしくし。
傷ついた羽で涙を拭います。
お婆さんは『何を切るの！？』と、脳内で突っ込み。
…少し考えて、自分の右手に大きなハサミがあったのを思い出す。

これに、ビビったのかな？
なんて、考えて。

『バカだなぁ。そんな怯えて。ほら、飯。醤油もあるから。』

「うにゅ。ありがとう、お婆さん。」

ちゅんちゅん。
泣きながらも、ご飯を受け取るタロ。
本当は、動物が大好きなお婆さん。

その後…。

きゃっきゃっと、誤解も晴れて楽しげに戯れる子雀とお婆さん。
……を、ひっそりと家の近くの桜の木の陰から見守る、優しいお爺さん

『本当は動物好きなくせに、お婆さんの照れ屋さんｖＶ…う～ん。しっかし、俺が出てったら、また照れて、タロに素っ気なくするしなぁ。帰り辛いなぁ。はぁ。』

そんな悩めるお爺さんの頭上ではー…。
桜の木の太い枝に、とまって作戦会議する雀が二羽。
双眼鏡でお爺さんの家を見て、お爺さん同様、悩んでいます。

『ねぇ、どうする？ジロ。両方共、良い人みたいだよ？俺らが集めたおばけ箱（大の方）使えないじゃん。』

『困ったなぁ。サブロ。う～ん。』

ちゅんちゅん。

どうやら、話に沿って、お世話になったお爺さんとお婆さんにプレゼントがあるみたいです。

『ってか、タロ、海苔だけぢゃなくて、あんなご馳走まで！ひどい！俺達がお化けと格闘してる間に！』

『…ねぇ、サブロ。考えたんだけどさ。お化けの詰めてない小さい箱（綴ら）に、俺らが入って、お爺さんに開けて貰うのはダメかなぁ？』

ちゅんちゅん。

『！！ジロ、あったまいー！！タロだけ、幸せになるなんて、ずるいもんね！』

『じゃ、僕はお化け（の入った大きい葛籠）を捨てて来るから、サブロは小さい葛籠を持って来て。』

『ラジャー！』

ちゅんちゅかちゅんちゅん。

…なんだか、頭の上が、ちゅんちゅん、ウルサいなぁなんて微かに思うお爺さん。

…。

あぁ。もう夕方かぁ。時間が立つのは早いなぁ。

なんて考えていた、お爺さんの頭上から、怪しげなリボンの付いた（あくまで）小さめの葛籠が一つ。

落ち…モトイ、届けられました。

ドガッ！！

『『痛でぇっ！』』

お爺さんびっくり！

ついでに中身も、びっくり！

『…すんごい、痛いんですけど。』

『喋っちゃだめって、サブロ！我慢して！』

ごちょごちょごちょ。がさがさがさ。

なんか、頭上から落ちて（！）来た葛籠。

イヤンな音がするけど、（ついでに、動いたりもする。）配送伝票の宛先は俺ん家だし…。

う～ん…。

『これをお土産にして帰ろう！』

ポジティブなお爺さんは、細かい事は考えずに、お婆さんと可愛い子雀の待つ我が家へと、急ぎました。

どきどきどき。
やっぱり、登場の仕方が肝心だからね。
頑張らないとね！
なんて、意気込む二羽の雀と共に。

…そして、お爺さんのお家には扶養家族が2匹増え、ついでに、海苔の消費量も格段に増えましたとさ。

めでたしめでたし。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2445m/

舌キリ雀?

2010年10月11日19時44分発行